

取、奉行石黒九兵衛・出野善太郎・櫻井新左衛門三人に相渡、帳面於會所遂算用、銀子拂方假切手可請取置事。
 一、麻亭用次第買調、亭奉行伊藤喜兵衛・横江伊兵衛、會所之裏判を以可相渡也。斷可爲右同前事。
 右定置所不可相違者也。

寛永十四年閏三月二日

山本吉兵衛

一二 富山城代附與力之儀御定

定

一、爲與力、侍二人・鐵炮者十人申付事。

侍

高木 九右衛門

大橋 八兵衛

鐵炮者

須山 太兵衛

坪内 茂左衛門

森 太郎右衛門

右富山在居中預置候也。但、彼地替申付候者、其人可相渡事。

一、與力侍・鐵炮之者、於村々在々不法度之仕合無之様、堅可申付事。

一、富山近邊山林令裁許、無油斷鐵炮之者山廻申付、用木念を入渡方以下可遂吟味事。

一、宿々夫・傳馬之事、無懈怠可相改。若夫・傳馬僞申懸者於有之者、或届置或とらへ、安房守・山城守・因幡守方に可相斷事。付、富山近邊諸事申上度儀於有之者可言上事。

一、與力并鐵炮之者内、令死去者於有之者、替人之儀可申上事。

片山 忠左衛門
 田邊次郎右衛門
 藤田 助左衛門
 窪 仁兵衛
 松田 八右衛門
 南部 宗右衛門
 野村 儀左衛門

右條々成其意、不可有違背者也。

寛永十四年閏三月四日

前田八左衛門殿

一三 諸色調達之儀御定

定

一、奥方女房共給銀并菜直銀子之外、賄方銀子算用目錄相極、土藏銀子請取可相渡事。

一、臺所鹽喰奉行入青山三右衛門・木崎勘十郎申渡、福田平左衛門手形次第可相渡。一ヶ年兩度宛可遂算用事。

一、接木鼻菓類、留主之刻は、植木奉行隨理、一門中其外人持中に可遣事。

一、越後新潟鹽引之事。辻平丞・上木金左衛門令相談相調、如跡々可令勘定事。

一、薪之事、山方在々前銀子相渡、用次第相調、笠間平右馬允方に可相渡候。一ヶ年兩度宛可遂算用事。

一、於能州相調うつきは、木、舟之通有之時分、官腰に指越、於彼地奉行人に渡置、用次第笠間平右馬允方に可相渡

候。一ヶ年兩度宛可遂算用事。

一、燒炭之儀、鶴來村長百姓十人計、其外佐良村九兵衛吉野村彌兵衛召加吟味、前銀子遣、調置次第福田平左衛門方に可相渡候。一ヶ年に兩度宛可遂算用事。

一、鍛冶炭之事、會所之者申談、鶴來村長百姓共其外佐良村九兵衛・吉野村彌兵衛申付、是亦前銀子相渡、用次第鍛冶奉行方に可相渡候。一ヶ年兩度宛可算用事。

一、奥方大工遣申刻、三人手前より切手を出し可召仕。竹木已下算用可相極事。

右之條々、在國之刻者、辻平之丞・上木金左衛門令相談相調、無滯可申付者也。

寛永十四年閏三月

神戸 甚左衛門

久田 儀左衛門

牧村 長右衛門

一四 鹽・薪受拂之儀御定

定

一、官腰土藏、能州鹽五万俵每年可納事。